

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	209230033		
法人名	長野県厚生農業協同組合連合会 富士見高原医療福祉センター		
事業所名	グループホーム やまゆり		
所在地	長野県諏訪郡富士見町富士見3796-5		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2092300033-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎台 24-3
訪問調査日	平成25年11月8日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

ホームの理念である『あるがままに、在るがままに・・・』を基本姿勢に、ここで暮らす入居者に対して認知症であっても豊かに暮らせるように支援していきます。日々の生活の中で、迷うとき、戸惑うときは職員一同が理念に立ち戻るように努めています。日々の生活活動では、食事作り、掃除、洗濯、炊作りを中心に動いていますが、これらの生活活動が、入居者の方々にとって『訓練』のための活動にならないように、その日の心身の状態に合わせて行っています。また入居者の方の希望に沿った対応ができる様、職員と一対一で関わる時間作りを努めております。地域との関わりの中では、ホーム近隣の住民の方々との交流を第一に考えています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

落ち着いたホームの内外の環境や、職員の利用者を尊重する気持ちの支援の下で、自由に利用者があるがままの生活をしていることを視ることができるグループホームやまゆりである。そして、利用者アンケートにおける家族からの安全・安心の満足度が高く、信頼が厚いことも頷ける。しかし、職員の異動に伴うサービスの質の変化、重度化の際の家族の不安の解消、ひもときシートを更に活用した訓練ではない多様な活動への参加など、困難な課題もある。利用者と職員と一緒に暮らす家族としての意識を高めて、本人の言うがままではない『あるがままに、在るがままに・・・』の理解を更に深めて実践することで、より高度な支援の質を期待できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(南ユニット)					
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている。 (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(北ユニット)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①新施設長の最初の挨拶で『あるがままに、在るがままに・・・』の理念に立ち返る宣言があり、職員全体で共有されています。 ②ひもときシートを使用しています。	その人らしく暮らせる理念を職員全員が共有し、日々確認し合いながら、本人本位の生活ができるように努め、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のボランティアグループの受け入れや、行事などある際小学生が訪問され交流する機会がありました。	日常的な買い物や散歩での顔馴染みの関係があり、小学生が遊びに来たり、地域の方々の各種ボランティア活動もあり、ふれあいの多いオープンなホームを目指している事が確認できる。	事業所が有する専門性を地域の課題に発信・還元するなどの取り組みが、更に進むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れをしています。 また、認知症ケア専門士等の資格取得の推進を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	年に4回開催し、ホームでの活動状況の報告を行っています。 また、ご家族の意見や要望をお聞きし、今後のホーム運営に活かしています。	会議では事業所の現状や取り組みの説明とともに、参加者からの情報や意見・要望の収集の場と位置付けている。 会議後は交流会を行い親睦を深めたり、新人職員の紹介などもあり、ホームへの理解を深める取り組みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議をの場を中心とし、意見交換やアドバイスを頂いています。 また、年2回開催される交流会にも参加していただき、交流の場を作っています。	運営推進会議、交流会等の出席で助言や情報を得るとともに、日常的に相談・協力できる関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	当ホームでは基本姿勢として『身体拘束』は行いません。ただし、身の危険性に対するリスクの説明をご家族に行っています。 また、鍵使用の施錠から簡易な施錠に変更し、今後も施錠をしない方向でホーム会等で話し合いを行っています。	身体拘束排除に伴うリスクについて家族と話し合い、理解を深めてもらう事を検討中である。 玄関の施錠については論議を重ね、段階的に施錠しない前向きな姿勢で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	管理者が中心となって、ホーム会やサービス担当者会議の時間を使い、ミニ勉強会を開催したり、系列施設での研修会への参加をしています。 また、管理者は職員の心身のストレスに配慮し気持ちよく働ける職場作りを目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在のところ、利用者に権利擁護に関する対象者はいません。そのため、職員に対して、成年後見制度に関する勉強会は実施しておりません。 しかし、今後必要性によっては学ぶ機会を作りたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとって行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々、入居者やご家族に対して気軽に意見や要望が言えるような雰囲気作りを大切にしています。 そこで出された意見や要望については、速やかに対処できるようにしています。	家族代表参加の運営推進会議、交流会、家族会等での意見・要望の把握とともに、面会時に気楽に言える雰囲気づくりに心掛けている。 また、出された事柄については速やかに対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ホーム会、リーダー会やサービス担当者会議の場を通じたり、毎日の申し送りの時間を使って職員の気持ちや、アイデアを運営に取り入れています。	管理者は各会議で意見提案をしっかりと聞く姿勢があり、一緒に働くなかで聞き出す努力をしている。 そして、休息時間の確保など、具体的な改善も確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の働きやすい職場作りや、職員の希望に配慮した勤務表の作成を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のやる気に配慮し、外部の研修等のスキルアップの機会も作っています。 他に、院内や系列施設にて行われている研修会への参加も促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	系列事業所の老人保健施設(4箇所)、小規模特別養護老人施設(1箇所)との職員交流や研修会への参加を積極的に行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	その方の持つ、世界を大切にすることを基本方針とし、初めは『直さない・正さない』事を念頭に置いています。 そして、日々のケアの中で、本人の心身の状態や、想いをくみ取るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	当ホームがご家族にとっても、『第二の家』になるような関係作りに配慮しています。 そして、アットホームな雰囲気の中から、家族の抱える悩みや苦勞を分かち合えるよう職員一同努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の率直な声に対し、迅速に対応することに努めています。 また、その内容によってはご家族と話し合いの場を持つよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	目標としては、職員、利用者ともに相互扶助の関係を目指していますが、時と場合によっては、支援する人・される人の力関係になっていることは否めません。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームへの来所時、推進運営会議、家族会の場を通じ、本人の日頃の状態を報告・相談しています。その際場合によっては、ご家族のお力をお借りすることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	当ホームは、ご家族・地域の方々に対し、オープンなホームを目指しております。こうした中で隣接する施設との交流など、入居者の馴染みなどとの交流ができるよう配慮しています。	知人・友人が気楽に来れるような心配りが、ホームのハード面・ソフト面の随所に視られる。 また、食材などの買い物が見えたら、馴染みの場所へ行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの想いや、時間を尊重しています。 その中で、一人が孤立することがないように、コミュニケーションや関わり方の充実により、共に暮らしを楽しめるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入居者やご家族の方々にとって、ここが『第二の家』になっていただけるよう努めています。 また、病院や施設のケアワーカーと連携をとることで入院や退所時のフォローを行います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	迷った時はひもときシートを使用し、一人ひとりの思いや希望に沿った暮らしができるよう配慮しています。	業務内容の見直しを行い、日常的な関わりのなかで本人とゆっくり過ごせる時間を作り、思いの把握に努めている。 意思疎通が難しい利用者とは普段の表情からの把握や、家族を交えての話し合いも行っている。	ひもときシートの今後の効果に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の培った人生や馴染みの物や場所など、できる限り把握に努め、これらに基づいた関わり方を心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の情報にはとらわれず、ホームで共に生活する中で見えてきた本人の力を活かすことで、より豊かに暮らせるよう支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護支援専門員が中心となり、現行のケアプランの進捗状況や評価を行っています。 また、リーダーが本人のその時の状況に合わせた柔軟な対応を行っています。	介護計画は本人がどのように暮らしたいかの意向に沿った支援内容となっている。 ひもときシートに基づく計画が妥当であるかなど、カンファレンスや評価は全職員で話し合い、本人本位のものであると感心する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活記録、身体状況に関する記録を中心に入居者のケアに繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者に関する必要な事柄に対しては、院内医師やリハビリ医、薬剤師、歯科衛生士の支援を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の民生委員さんからは、開所当初からホームの環境面に対しての、ご協力を頂いています。 また、地域のボランティアグループの活動の場として提供しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当ホームの経営母体である、富士見医療福祉センターの全面バックアップを受けています。	本人・家族の希望するかかりつけ医や医療機関での受診を支援している。 家族からの要望でホームでの様子を受診の際に提供しやすいような取り組みも始まり、医療機関との情報の伝達がスムーズになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	老人保健施設より週一回、看護師が来所し健康チェックを行っています。 また、富士見医療福祉センターより全面的なバックアップを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ホームの経営母体である、富士見医療福祉センターの全面バックアップを受けています。 そして、介護支援相談員が中心となって、主治医と連絡を密に取り、その入居者の方向性をご家族と相談をしながら決めていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	当ホームは方針として、『看取り』は行いませんが、身体機能の低下や状況の変化がみられた際は、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、方向性を決めていきます。その際は富士見医療福祉センターの関連施設とのネットワークを活かした対応を検討します。	契約の際に、看取りは行わないことを説明し納得してもらっているが、重度化の際の説明が十分とはいえない現状である。 しかし、重度化の際の指針ともいえるマニュアルを検討中との事である。	事業所の重度化の際の指針を基に、本人・家族と十分に話し合い、不安なく安心して暮らせる環境の整備を期待したいものである。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	当ホームで定めている『緊急時のマニュアル』に沿った対応を行っています。 また、年一回は『救急救命講習』を実施していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	当ホームで定めている『防災マニュアル』に沿った対応を行う予定ですが、地域住民との災害協定は結べていません。	定期的に避難訓練を実施し、訓練後に問題点や課題を抽出している。 そして、次の訓練では改善に向かうなど、進化を視ることができる。	有事の際、全職員が落ち着いて行動できる事業所独自の各種災害マニュアルの作成と、その意識付けを更に深めることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助が必要な時も、本人の想いを察するケアを心がけ、『いいよ・嫌だ』の意思をくみ取っていますが、日々の生活の中で、時と場合によっては不十分なこともあるかと思っています。	プライバシーに配慮した声掛けや、本人を尊重した対応を心掛けている事が確認できる。	その方の『あるがままに、在るがままに・・・』が理念に沿っているかなど、常に職員間で確認し合う事も必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の想いを察し、希望を叶えるべきケアを心がけていますが、時と場合によっては、不自由なこともあると思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の持つ『時間の流れ』に沿った暮らし方ができるよう努めています。 また、生活リズムの観点から、職員主導の『時間の流れ』を求める場合も、さりげない誘導を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやお洒落にたいして特別な拘りはありませんが、化粧や毛染めなどご本人やご家族の希望に沿った対応は行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューの全ては、入居者の希望を取り入れていませんが、日々の生活の中で『食べたいもの』の声を拾い上げてメニューに反映しています。 また、旬な食材、季節に即したメニュー、地域の郷土食も、時として取り入れます。	食材の買い物、調理、後片付けなど、無理強いない範囲で一緒に行っている。 また、畑での野菜作りを通した成長の楽しみや季節感なども提供して、食への関心を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	当ホームの毎食の献立は、基本的に富士見高原病院の管理栄養士が作成したメニュー表に基づいて作られています。 また、必要な入居者には、一日の食事量、水分量の観察及び記録を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアは入居者全員行っております。ご自分で上手に行えない方は、職員が時間をかけ丁寧なケアが行われております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	基本的には、毎食後の排泄誘導を実施していますが、入居者によってはその方の排泄パターンに即したケアの実施ができています。 また、全入居者に対し羞恥心に配慮した声がけもできていると思っています。	時間を見計らった誘導や、本人の習慣を把握しての誘導で、日中における排泄の自立は可能となっている。 そして、おむつからトイレ誘導へと改善された例もあり、家族からの信頼や職員の自信も高まっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員全員で入居者の排便間隔・便の性状に注意を払っています。 また、必要に応じ、申し送りの時間を利用し柔軟な対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回の入浴を基本としていますが、希望者や発汗の多い入居者の方に対しては、その限りではありません。入浴拒否の強い入居者に対しては曜日や時間を固定せず柔軟な対応をしています。	同性介助や午後入浴に出来るなど、本人の意向に沿った支援が展開されており、利用者の楽しみな入浴時間の提供が確認できる。 また、新設ユニットの機械浴も活用して、一般浴では難しい利用者にも好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転にならない程度に、午睡やその日の体調に併せ、休息がとれるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	老人保健施設の看護師の指導の下、入居者一人ひとりの専用ケースで薬の管理を行っています。 そして、服薬時は飲み込むまでの確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方の培ってきた人生を参考に、また、ホームでの暮らしの中でみえてきた『得意・不得意』を配慮して、本人の気が向くときに、入居者と相談し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者一人ひとりの希望に沿う形で外出などを行いたいと思っていますが、時と場合によっては困難な時もあります。 近所へ散歩や買い物への同行、入居者の声から拾い上げたバスハイクなど定期的実施しています。	日常的な買い物、散歩、隣接施設への喫茶会など、利用者の状況に合わせた支援をできる限り実施している。 また、バスハイクなどは家族にも呼びかけ盛況に行われ、一緒に楽しめる時間も提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームの運営主体の方針により、現金をホームへ置くことが難しいため、現金の扱いはしていません。 ただし、欲しい物買えるように、近所のスーパーにて口座引き落としの体制はとっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	先方からの電話取り次ぎやお便りの返信、また、入居者の携帯電話の持ち込みにて対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者、ご家族、職員、訪問客全ての方々に『気持ちよい環境』を意識しての環境作りを行っています。	木の温もりと日当たりの良い広い共有スペース、居室とは別に一人で過ごせる空間もあり、日中のほとんどをフロアで過ごす利用者の姿には居心地の良さがうかがえる。 ここに、理念の『あるがままに、在るがままに・・・』を視ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人になれる空間(居場所)や時間を持てるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内への私的持ち物に関しては、重要事項説明書で禁止されているもの以外は、ご家族、本人と相談しながら、居心地のよい居室作りを心がけています。	収納タンスは備え付けであるが、本人の気に入った物や品を置き、その人らしい居室も確認できる。 また、ホームから本人の馴染みのものの持ち込みを依頼して、本人の落ち着きを回復した例も確認できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その入居者の行動障害や身体状況に合わせ、安全面に配慮しています。		